



75 ~12  
1610

源山系

少子山系

微正記

~12  
1610

正微  
此氏、東福寺の著述を勸め、  
徹著述と稱す。歌を宗川  
了依、藤原為平の學ぶが、  
その歌調世の音心おのほしう乙。  
以科に論せしと座と結ぶ。始  
月入(松岡)と評す。同輩散  
台之傳と。長祿二年(1610)年  
年七十九

12  
1610  
門入  
番  
卷

Handwritten text in a rectangular box, likely a title or chapter heading, written in a cursive style.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several vertical columns of characters in a cursive script.



平章堂



源信長

あそふ風のつらみよふれりて  
まらうひとれとすもあはれ

清く 無き

むれりてあはれあはれあはれ

風乃すまらりてあはれ

又 こそのお

りつれりては君の袖

むらあはれあはれあはれ

清く 無き

花はらりてあはれあはれ

多し 竹川

しれむの

おの君

おのそふりてあはれあはれ

あはれあはれあはれ

源信長

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ



をうらけしきつらきことありて  
なれまげごのひぢり舞  
はくゆり風おちりりのことりこ  
おひくぬまもむとみちり

清方様への書

はくとみそつらちりぬもみれを  
まきぬまありさうめんきせな  
おむれいこぬとれい右様ひり書  
はくおちりもつらつ福さあ  
うらけまもぬとれいすみ

いづれかののたまは君

いあやそやうのふさうとたつち  
あつとあつても我のしり  
からしりしりつらつたつち  
あつとあつても我のしり  
いづれ

おぬらつたつち  
とのゆりそつらつたつち  
いづれ  
はくもつらつたつち

松尾の神ありや  
かろし君はしをい説よこしはく  
まはちしはらかりは君待はしふ  
名をいりつゝあるを君人かおたり  
てみり  
源待は  
これきそとて心月日をくく  
もれらるゝしはくしのみら  
卯月よりい清くありあるか  
あるかおるゝ君中およこらした  
いおのうしはしをのほく

藏人かお

いおあそすなぬもいりあつ祿を  
くまひしのみありか

中お君

おののや清くまはしし  
おのりおいつくす

君人かお

あつたそととせし  
君よりくろ我わとあつ  
清くおのり





もよおしにや一之落一

之落れ交り申いたたよま言ふ人のみこ  
しそをりけり清しとめいれり  
御りに二とありとつゆとれ  
君をせ給くはらふれ清しとれ  
いよすりて女交ありとつり  
つ祿はよまのうし祿ならぬけ  
池のあまうしのを祿らつり  
をのまきつりしとあたまて  
清とよとせりぬく

一之落のま

うりきく  
源氏のおとせ

うらすそつりひらりあり水鳥の

かりのこのまふ立たれらん

じりまのりまかてまわりぬく

いせ君

あけまのま君も  
申君のあま

いとくすそらけりそと思ふも

うたふらりの契とをしり

申君

あつしとま祿うらりけり君あつ

見しをまはりよまうりつり







なまらひのこころをいひまをいひま

ふらふらとわらふこころに  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま

しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま

しらべのこころ

しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま

しらべのこころ

しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま  
しらべのこころをいひまをいひま

白無名

たのしみと喜びを分かちあひて

清如 申の君

かきつらむのあはれいふはれ

うたはれとよめまの娘人  
林のうらなうらなうらなうらな  
世はうらなうらなうらなうらな  
いふはれとよめまの娘人  
うたはれとよめまの娘人

白無名

うたはれとよめまの娘人

清如

うたはれとよめまの娘人

うたはれとよめまの娘人

うたはれとよめまの娘人

白無名

うたはれとよめまの娘人

いとまも落乃りぬ夕暮。

清く

いぢ君

涙のこぼれしは

こぼれしは

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



毎夜に夢に見る事ありて  
あはれなる事ありて

いづれか  
いづれか

君を思ふ事ありて  
あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

申君

たぐひなき事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

いづれか  
いづれか

雷を思ふ事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる事ありて  
あはれなる事ありて

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

申買

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

あつたてのうらなひ

秋もあつたてのうらなひ  
うらなひのうらなひ  
うらなひのうらなひ  
うらなひのうらなひ

あつたてのうらなひ  
うらなひのうらなひ

うらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

うらなひ

あつたてのうらなひ

うらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

今て西條君のともりてうらうらと  
こころとて君とありてくありて  
あはれいかに<sup>た</sup>いひてお察あり

かぎり

たあこころをせうちけりてい  
うたあつた多うた

<sup>あはれ</sup>西條君

いふれうけりていひて  
うらうらとありて  
其のたはれは

たのむるもの

其のた

なみありていひて  
いさつたはれ

かぎり

いふれうけりていひて  
いさつたはれ

申の君と其のたはれありて  
いさつたはれ

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

いぢ君

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

兵甲の

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

いぢ君

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

いぢ君

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

いぢ君

あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心  
あはれなる御心

申交

あしきのこ。そのあひらからいひの  
まうし申と約まらむ(申)

祚み月のまあ無事なまのあひら

まうし申と約まらむ(申)

か、お申す

いつきもともとのあひらからいひの  
このまうし申と約まらむ(申)

まうし申と約まらむ(申)

あしきのこ。そのあひらからいひの

まうし申と約まらむ(申)

右条の清

あしきのこ。そのあひらからいひの  
このまうし申と約まらむ(申)

まうし申と約まらむ(申)

あしきのこ。そのあひらからいひの  
このまうし申と約まらむ(申)

まうし申と約まらむ(申)

あしきのこ。そのあひらからいひの  
このまうし申と約まらむ(申)













あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

申書

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

申書

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ

申書

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひ



おのめいりのたてしとあやういふ  
さうしてねんころりお月もさう  
あつちまをさしぬく法子の取  
申おして 右大臣 兼 左大臣

おのめいり月よりすめねね  
約しおのめいり

あつちまをさしぬく法子の取  
おのめいり月よりすめねね  
あつちまをさしぬく法子の取  
おのめいり月よりすめねね

あつちまをさしぬく法子の取  
おのめいり月よりすめねね  
あつちまをさしぬく法子の取  
おのめいり月よりすめねね

申者

おのめいり月よりすめねね  
あつちまをさしぬく法子の取  
おのめいり月よりすめねね  
あつちまをさしぬく法子の取









ふりまもあめ多きとて  
君はあめたつていかに  
おはあめあめあめあめ  
ふりの縁の多きとて  
一ふりあめあめあめあめ

うまいおれ君とて  
ふらふ中屋のあめあめ  
あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめあめ

あめあめあめあめあめ

あめあめあめあめあめ



あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめあめ

中君

あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめあめ

君よのこころをわすれぬ  
よのこころをわすれぬ  
よのこころをわすれぬ

母の母

いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ

このおぼ

いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ

いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ

いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ

母の母

いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ

このおぼ

いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ  
いづれもわすれぬ



あいのあに

おののあに

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた

うたのうた











我世つとるを君もしくし

かきうく かきうく

うたみ うたみ

あ あ

あ あ

志のひ神や君にかくし

し し

津也

あ あ

そら そら

心 心

な な

て て

く く

こ こ

あ あ

我 我

あ あ

う う

な な

あ あ





まじはむらじの家の

あは君

林の野、お家のしなまむらじりな  
じくさくさくさくさくさくさく

てのひの君れくさくさくさく  
あまよよ月とあつたあつた

この葉ちんちんちんちんちんちん  
かむらじりて歸山の雲とあつた

あつたあつたあつたあつたあつた  
しつとあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あは君

あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

あは君

あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

あは君





花洛清崑正徹世八家

あはれなるそらと

はるくくくく

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと

あはれなるそらと



君の御手紙を拝見し、

御返事を書き、

御手紙を拝見し、

御返事を書き、

御手紙を拝見し、

御返事を書き、

御手紙を拝見し、

御返事を書き、

御手紙を拝見し、

御返事を書き、

御手紙を拝見し、

御返事を書き、

御手紙を拝見し、

御返事を書き、

御手紙を拝見し、

御返事を書き、

御手紙を拝見し、

御返事を書き、

御手紙を拝見し、

御返事を書き、













Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter, possibly 'ب' (Ba), and contains several lines of dense script. There are some small annotations or corrections in the text, such as a circled 'ب' and some characters with small marks above them.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter, possibly 'ب' (Ba), and contains several lines of dense script. There are some small annotations or corrections in the text, such as a circled 'ب' and some characters with small marks above them.









Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the width of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is written in a cursive style and spans the width of the page.



Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written in a fluid, connected style. The first line begins with a large character that appears to be '一' (one). The text continues across several lines, ending with a small mark at the bottom right.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style. The first line begins with a large character that appears to be '二' (two). The text continues across several lines, ending with a small mark at the bottom right.



Handwritten text in cursive script, top line of the left page.

Handwritten text in cursive script, second line of the left page.

Handwritten text in cursive script, third line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the left page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, ninth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, tenth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, eleventh line of the left page.

Handwritten text in cursive script, top line of the right page.

Handwritten text in cursive script, second line of the right page.

Handwritten text in cursive script, third line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the right page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, ninth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, tenth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, eleventh line of the right page.



天にあらはれし御心  
御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

松風

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心

御心あらはれし御心





Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans across the top and middle of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. It is written in a cursive style and spans across the middle and bottom of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. It is written in a cursive style and spans across the middle and bottom of the page.

かきつらりあくる見  
草乃を採らり  
いそぎくらめ  
もれおひ  
の花

陽陰書

かきつらりあくる見  
草乃を採らり  
いそぎくらめ  
もれおひ  
の花



